

こりあんコミュニティ研究会

Korean Resident Community Research Group

こりあんコミュニティ研究会は、都市研究プラザ副所長の水内俊雄と特別研究員の中山徹（大阪府立大学）の共同代表のもと、都市研究プラザ教員の全泓奎、特別研究員の本岡拓哉、宮下良子、黒木宏一のほか外部3名の研究者が運営委員として、2009年3月に発足した。

研究者・市民・ジャーナリストが会員となる本研究会は、多様な分野間によるコリアンコミュニティに関する学術的研究や情報交流を通して、多文化共生社会の在り方を模索することを目的としており、都市研究プラザ社会包摂ユニットが目指す包摂型社会に向けた研究や活動にも通底するところが大きいといえる。

具体的活動としては、調査研究活動と情報交換活動に大別される。2009年度の財団法人住宅総合研究財団の助成を受け、すでに伊丹市旧中村地区や宇治市ウトロ地区、新宮市や広島市で調査を行っており、今後は、和歌山市や北九州市、さらには関東・東北地方まで研究対象を広げていく予定である。

その他、本研究会の重要な研究対象地域になっているのが、大阪在住の済州島出身者の文化的・宗教的拠点であった桜ノ宮龍王宮である。龍王宮にまつわる在日コリアンの記憶をどのように記録するか、そしてその成果をいかに多文化共生社会に接合させていくかも重要な課題である。

また、本研究会はこの桜ノ宮龍王宮という場所を利用すること自体が、社会に広くこの場所の発する価値を周知できると考え、定例研究会をこの龍王宮で実施している。新型インフルエンザによる延期のため合同となった第3・4回



桜ノ宮龍王宮での研究会風景

研究会（日時：2009年6月20日（土）14:00～17:00）では、高野昭雄氏（京都女子中学校・高等学校）による「戦前京都の都市形成と在日朝鮮人」と、本岡拓哉による「コリアンコミュニティのタイポロジー」の報告がなされ、30人以上の参加があった。

このほか、会員同士の情報交流の場および社会への情報発信のツールとするニュースレターを年4回刊行し、2010年3月には、コリアンコミュニティ関係の論文やレポートなどを収録する雑誌の発刊も予定している。

<< 本岡拓哉（G-COE博士研究員）



こりあんコミュニティ研究会のニュースレター「koco-ken」

Academic staff and special researchers of the Urban Research Plaza are involved in the operation of the Korean Resident Community Research Group which was launched in March, 2009. The purpose of this research group, whose members include academic researchers, citizens, and journalists, is to try to envision the shape of a multicultural society through academic research and information exchanges concerning the Korean resident community taken from many different disciplines. In addition to research and survey activities, by putting on a regular research meeting once each month and publishing a newsletter four times a year, the group is providing a venue for information exchange between the members and is disseminating the information to society at large. The group also plans to publish a journal made up of research papers and reports on the Korean resident community in March of 2010.